

# 山大病院だより

6  
2017

VOL.234

特集：◎NICU同窓会

## 新病院長就任のごあいさつ

山口大学医学部附属病院長 杉野法広

この度、山口大学医学部附属病院長を拝命しました杉野法広です。私は、昭和60年に山口大学医学部を卒業し、当時鳥越正教授が主宰されていました産科婦人科学講座に入局しました。その後、加藤紘教授（元山口大学長）のご指導を賜り、平成15年に産科婦人科学講座の教授に就任しました。以後、産婦人科の診療科長、総合周産期母子医療センター長を務めてきました。昨年からは、病院長補佐として病院の運営にも携わっておりました。

現在、本院では、新病棟（平成30年度竣工）の建設をはじめ、既存施設の改修、最新医療機器の導入など、病院再開発整備事業を進めています。本事業を着実に実施するため、副病院長、病院長補佐や多くの職員との密接な連携のもとに、戦略的な財源の確保による経営の安定化に努めています。

今、日本の活性化に向けて「地方創生」が叫ばれています。地方の活躍が日本全体の活性化に繋がることが期待されています。その中で、キーワードとなるのは、人材です。大学病院の重要な役割は、人材育成です。「人こそ組織の宝」です。優れた人材の育成、そして山口県に定着する医療人の確保が、医学部附属病院の使命であると思っています。私は、大学病院が「生涯を通した教育の場」であること、さらに「安心して研修できる場」でもあることを目指しています。

大学病院の使命、存在意義のひとつは、医学・医療の進歩に貢献できる高いレベルの研究や高度・先進医療を行うことです。大学病院でしかできないことを推進していきます。同時に、高度・先進医療の場である大学病院は、高いレベルの医療安全管理体制を確保することが何よりも優先されるべきです。「医療安全を病院の文化とする」というスローガンで、高度な医療安全体制を目指します。そして、山口大学医学部附属病院が、山口県の医療における「最後の砦」として、今も未来も、安心・安全な質の高い医療を提供できるよう努めます。

本院の規模は、職員1680人で、会社で言えば、大企業です。大企業の中でも、一人ひとりが個人の力を発揮することはできます。そのために大切なのは、私はチームワークだと信じます。大学病院は、高度な医療を提供する所ですが、これは皆が力を合わせて、初めてできることです。チームワークによって最大限の能力が発揮できるのと同時に、チームワークによって潜在的なリスクを最小に減らすことができます。我々が、向かいあうのは患者さんの命です。ぜひ、チームワークを大切にください。

私は、職員や学生など、皆が仕事、勉学や研究にやり甲斐を感じ、大学病院で学び働く事を誇りに思えるような、活気あふれる魅力的な山口大学医学部附属病院を目指して全力を注ぐ覚悟です。ご支援を賜りますようお願い申し上げます。





## 就任のごあいさつ

この度、山口大学医学部附属病院の看護部長に就任いたしました原田美佐（はらだみさ）と申します。就任にあたり皆様に謹んでご挨拶申し上げます。

私は山口県宇部市で生まれ育ち、地元  
の中学・高校に進学後、山口大学医療技術短期大学部（現、医学部保健学科の前身）に進学して当院に就職しました。最初は、耳鼻咽喉科病棟で勤務をしました。まだまだ「がん」であることを患者さんに伝えるか伝えないか、そんな議論さえされていない時代でした。6年間病院で勤務したのち、母校の教員として9年間勤務後、再度病院に看護師として



山口大学医学部附属病院  
看護部 看護部長

## 原田美佐

戻りました。学校から来た（一見扱いにくい存在の）私に対して教え子たち（職場では先輩ですが）から、「原田さんの仕事はきれいですね」「ドアを閉める時、もうちよつと静かに閉めて下さい」「患者さんが離院？インシデント書いて下さい」と褒められたり、叱られたり、指導されたり…。その間に広島大学大学院で修士課程を修了しました。その頃は、夜勤をしながら大学院に通っている「私」が一番きつい、大変だ！と思っていました。実はその時に学校に行かせていただいた看護部管理室の皆様、その時の上司だった看護師長さんたちのお力添えやご理解があったからこそ学べたのだ、ということが後になってからやつとわかり、今でも本当に感謝しています。

当院看護部のポリシーは『あたたかい看護の探求と実践』です。医療や看護を通し、地域の皆様がその人らしい生活や暮らしが地域で続けられることをめざして、職員一人ひとりの持つ力が最大限に（思いっきり！）発揮できるような職場を作っていきたいと思っています。すべての職員が患者さんやご家族、共に働く仲間同士の人格や尊厳を守りながら「あたたかい」対応を心掛け、相手にとっての「最も良い状態」を共有し、最善のケアが提供できるように、看護部のトップマネージャーとして尽力して参ります。

皆様、これからどうぞよろしくお願ひいたします。

この度、平成29年1月16日付で、皮膚科学講座教授を拝命いたしました下村裕（しもむらゆたか）と申します。着任にあたり、「山大病院だより」をお読みになられている皆様に謹んでご挨拶申し上げます。

私は、昭和49年に新潟県に生まれ、平成11年3月に新潟大学医学部を卒業後、同大学皮膚科学教室に入局しました。平成15年3月に学位を取得後、平成18年4月から4年間、米国コロンビア大学医学部皮膚科に留学しました。帰国後は新潟大学に戻り、臨床・研究・教育にさらなる研鑽を積みました。そして、本年1月に山口大学に着任し現在に至っております。

私の専門分野は皮膚遺伝学で、毛髪疾患をはじめとする遺伝性皮膚疾患の原因遺伝子の同定や発症メカニズムの解明に向けた研究を一貫して行っており、また、それらの研究活動で得られた知見は、実際の診療活動にも大いに生かされております。



山口大学大学院医学系研究科  
皮膚科学講座 教授

## 下村 裕

さて、皮膚は全身を覆う巨大な臓器であり、生体の恒常性を維持する上で重要な機能を有します。また、内臓疾患の状態を反映して多彩な皮膚症状が出現します。さらに、近年開発された数多くの生物学的製剤や分子標的薬によって手足症候群などのさまざまな皮膚障害を生じることからも、皮膚科の重要性は増してきているといえます。私達皮膚科医は、皮疹を見て生体内で起きている現象を推測することができ、「眼力」を日々鍛えております。他科の先生方から、「皮膚に何かよくわからないものが出たら皮膚科にコンサルトしよう」と常に頼っていたできるように臨床力をさらに向上させていく所存です。

本年5月からは教室員が6名と本講座開設以来の厳しい台所事情ではございますが、本物の家族のように教室員全員が一丸となつて頑張っております。病院経営の足を引っぱらないことはもちろんですが、何よりも患者さんに不利益が及ばないように、これまで以上に質の高い診療活動を行ってまいります。皆様、今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。





山口大学大学院医学系研究科  
小児科学講座 教授

## 長谷川俊史

平成29年3月1日付けで、小児科学講座教授および小児科長を拝命しました。長谷川俊史(はせがわしゅんじ)と申します。山大病院だよりをご覧いただいている皆様に謹んでご挨拶申し上げます。

私は平成3年に山口大学医学部を卒業し、本院および県内の病院で勤務した後、山口大学大学院に進学し、医学博士を取得しました。大学院時代に東京の順天堂大学免疫学教室で免疫・アレルギーに関する基礎研究を学び、平成12年から国立下関病院(現在の関門医療センター)アレルギー科で約6年間、小児から成人までのアレルギー診療に携わりました。平成18年からは米国サンディエゴでアトピー性皮膚炎の基礎研究に従事し、平成20年に帰国し本院に勤務いたします。

診療ではアレルギー、感染症、免疫が専門で、気管支喘息、食物アレルギーなどの患者さんを中心に外来診療(週3

回)をしています。病棟では、入院患者さんの病気によって循環器、血液・腫瘍神経、腎臓、新生児、代謝・内分泌、消化器、アレルギーなどのそれぞれ専門医師が担当します。常に診断や治療方針などについて検討し、最善の医療が提供できるように心がけています。

山口県内の子どもたちが大人になるまで健やかに過ごせるように、県内の小児科医と協力しながら、診療を行っています。小児科医は『子どもの総合診療医』です。子どもたちに関することなら何でもご相談ください。私たちは子どもたちを守るために昼夜なく、診療および研究に勤しんでいます。私たちは高度な医療を提供し、信頼される医師を目指していきます。理想は『自分の子どもを受診させたい医師』です。

私は、宇部市の出身で本学を卒業するまで病院周辺で過ごしました。私にとって身近だった山大病院が、これから患者さんにとってよりよい病院になるよう努力していきます。私たち小児科医は日本、そして世界の将来を担う子どもたちを守る仕事で、これほどやりがいのある仕事はないという熱い思いを胸にがんばりますので、どうぞよろしくお願いたします。



山口大学医学部附属病院  
放射線部 診療放射線技師長

## 岩永秀幸

この度、平成29年4月1日付けで、放射線部の診療放射線技師長を拝命致しました。岩永秀幸(いわながひでゆき)と申します。就任にあたり皆様にご挨拶申し上げます。

私は、昭和38年に東京で生まれ、小学3年生の時に両親の故郷である佐賀県伊万里市に移り住み、昭和61年に熊本大学医療技術短期大学部診療放射線技術学科を卒業後、同年4月に隣の山陽小野田市の山口労災病院の放射線部に就職しました。

山口労災病院には12年勤務し、この間、X線撮影や血管造影、核医学検査技術を習得し地域貢献に努めて参りました。平成7年6月には、山口労災病院が全面改築され現在の建物になりました。改築に合わせて、地方の労災病院では初めての全面CR化を図り、同時に長期保管可能な画像サーバーシステムも構築し、実現させて参りました。

平成10年4月より山口大学医学部附

属病院放射線部に主任放射線技師として入職し、デジタル画像の研究をしていただくこともあり、平成13年には「9・11事件」の中、シカゴ大学カートリオスマン放射線研究所に日本放射線技術学会の短期留学制度を利用して、3カ月間コンピュータ支援診断(CAD)の研究をしました。その後、平成14年9月から核医学担当主任、平成21年9月には電子カルテ導入に合わせて、放射線画像以外の超音波画像、内視鏡画像、心電図など、ほとんどの画像を統合管理する統合医用画像サーバーを構築し、当院のフィルムレス運用を実現させて参りました。そして、現在では電子カルテ上で動画参照やCT画像を任意断面で参照できるシステムも実現させて参りました。

新病棟もベース部分が完成し、いよいよ外観が出来ます。私事、人生で2回も新病院の構築に関わることになることは夢にも思っていませんでしたが、過去の経験と新しい発想力を生かして放射線機器を始め、病院全体が効率的に運営できるように尽力したいと考えております。皆様、今後とも宜しくお願申し上げます。



総合周産期母子医療センター

第2回

# NICU同窓会

開催  
しました

3月5日(日)、総合周産期母子医療センターの主催で第2回NICU同窓会を開催しました。NICU・GCUを退院した満3歳になるお子さんと一緒に、たんぼぼ保育園のホールで4家族(入院していた児4名とご家族7名)と久しぶりに再会し、楽しいひとときを過ごしました。

総合周産期母子医療センターは、24時間体制で母体、胎児、新生児の疾病に対して集中治療を行う施設です。NICU(新生児集中治療室)・GCU(新生児治療回復室)には年間約400人の新生児が入院してきます。その中には超低出生体重児や重症仮死等の重篤な合併症を有するお子さんもおり、保育器の前で両親が将来を案じて涙を流されたり、呆然とされたりする姿をよく目にします。私たちは、この子達のこれからの人生が少しでも不自由なく過ごせるように、軽微な状態の変化も見逃さず、数日間寝ずに治療を行う事もしばしばあります。

去る3月5日(日)、第2回NICU同窓会を開催しました。そこには、3年前、当センターに入院していたお子さん達が元気に声を上げて走り回る光景がありました。ご家族からは、「あの時は不安でしたが、本当によくしていただいて、ありがとうございました」という声をいただき、「この子達の救命と成長の現場に立ち会うことができ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。」

当センターが同窓会を開催するのは2回目、今回は久々の開催で準備に時間がかかりましたが、ご家族からの反応も良く、今後も継続して開催したいと思えます。そして同窓会でご家族と再会できる事をひとつのモチベーションとして、今後も治療や看護、ご家族の心のケアを行っていききたいと思います。





## 同窓会に参加して

同窓会スタッフ代表  
1病棟4階東看護師

黒田 恭子

当日は、記念写真の撮影、お菓子作り、手型とり、医師からのピアノとバイオリンの演奏のプレゼントなどがありました。また、自身のお子さんが早産だった病棟スタッフから成長日記の紹介もありました。

参加されたご家族からは「当時のことを振り返って笑って過ごせる日が来るとはNICUにいた頃は全く想像がつかなかったけど、必ず笑える日は来ると、面会に通われているご両親へ伝えたい」と感想がありました。

今回は2回目で、10年ぶりの開催となりましたが、来年度からは継続して開催する予定です。今後も、子どもたちの成長をご家族と一緒に見守りたいと思います。



山大病院の旬な話題をお届け!

YAMADAI  
NEWS



NEWS



## 「看護の日」記念行事を開催しました

5月9日(火)本院外来棟において「看護の日・看護週間」にあわせた看護の日の記念行事を開催しました。

1階ロビーでは、看護の日を記念した式典を行い、杉野病院長の挨拶の後、看護部職員へ感謝の意をこめて原田看護部長に花束を贈りました。

2階では、医療スタッフによる健康チェック、血糖測定、医療・栄養・福祉の相談、手洗いチェック、ハンドマッサージ、介護用品の展示などを行いました。他に看護師等による「看護の力」をテーマとした各病棟の紹介パネルや日頃の業務で感じたことを詠んだ川柳、写真の展示、平成30年完成予定の新病棟の紹介などを行いました。

「小さな看護師さんコーナー」では、白衣を着た子どもさんがヤマミ(山口大学キャラクター)と記念写真を楽しむ姿も見られました。

多くの患者さんや来院された方に参加いただき、看護に接してもらう良い機会となりました。



小さな看護師さんコーナー



血圧測定



新病棟のパネル展示

## 1 病棟 7 階 東

各病棟をご紹介します



動器疾患に対する手術や検査が行われています。

がんによる痛みや不安のある悪性疾患の患者さんに対しては、よりよい看護を提供できるように院内で研修を積んだ院内がん認定看護師が2名います。また、痛みに対して緩和ケアチームの介入もあり、患者さんの苦痛を最小限にできるシステムも整っています。泌尿器科の手術には尿路を変更し、腹部にストーマ(※1)を造設する場合もありますので、皮膚・排泄ケア認定看護師と病棟の受け持ち看護師が連携して患者さんの生活の質(QOL)が保てるように手術の準備段階から支援しています。

1病棟7階東は、泌尿器科33床、整形外科5床、共通病床3床の混合病棟で、29名の看護師と2名の看護助手、1名のクラーク(平成29年4月現在)が働いています。若い看護師も多く、とても活気のある病棟です。

泌尿器科では、尿路や生殖器疾患に対する手術や放射線療法、化学療法などの治療のほか、腎不全に対する血液透析、腹膜透析、腎移植といった治療が行われています。整形外科では、骨や関節などの運

透析、腹膜透析、腎移植といった治療をこれまでの生活に支障なく導入できるように、外来受診時から病棟の看護師が支援できる体制づくりに力を入れています。この腎移植・透析療法相談外来は、隔週木曜日になりますが、医師から依頼のあった治療方法の説明や、治療を継続するために必要な社会資源などについて研修や経験を積んだ病棟の看護師が時間をかけて対応しています。また、血液透析や腹膜透析などの治療は生涯継続していか

ればならない治療のため、医師とのカンファレンスを定期的に行いながら、実際の面談では情報提供だけでなく、患者さんの治療に対する思いにしっかりと耳を傾け、患者さんも治療の決定に参加できるように努めています。

私たちは、「安全・安心な看護を提供すること」を目的に看護師2人1組で患者さんのベッドサイドヘラウンドを行っています。このため、点滴や内服薬のチェックを二重に行う事ができ、看護師同士がお互いの看護について学び教え合うことができるなど、メリットがあります。超高齢化・少子化社会の中、入院される患者さんがご自宅や地域など生活の場に1日も早く戻れるように支援することが私たち看護師の役割です。そのために、看護師一人一人がさらに自己研鑽を重ね、患者さんから「ここに入院してよかった」と思ってもらえるような安心であたたかい看護を提供できるよう今後も取り組んでいきたいと思えます。

※1..おなかの外につくった便や尿の排泄口のこと、腸や尿管をおなかの外に引き出してつくられます。人工肛門・人工膀胱ともいわれています。



看護師2人1組でチェックしています。



新人看護師3名もがんばっています!!



相談外来スタッフ



腹膜透析に使用する器具です

## 村上師長より一言

1病棟7階東は、看護師同士だけではなく医師や病棟薬剤師など多職種との声掛けも多くの人間関係もとてもよい病棟です。このチームワークの良さを、入院患者さんへの支援に活かしていきたいです。





今回は豆腐。『畑のお肉』と言われる大豆からできている豆腐は、安価で手軽に利用でき、かつ栄養価の高い優れた食品です。豆腐をそのまま食べるだけではなく、「豆腐クリーム」として料理のバリエーションを増やしてみませんか？

せっかく固めた豆腐ですが、これをミキサーで攪拌するとクリーム状となり、いろいろな料理に使えます。豆腐そのものが淡泊な味なので、料理だけでなく、お菓子にも利用することが出来ます。



Today's menu

## 豆腐クリーム

### 作り方

水切りした豆腐をミキサーにかけて(約30秒)なめらかな状態にする。



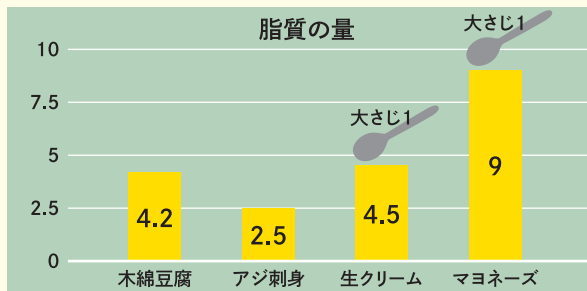
ディップ 左からケチャップ、カレー粉、プレーン(コンソメ)、練り梅

### 作り方

豆腐クリームに調味料を混ぜるだけ。豆腐クリーム(50g)とコンソメ(1g)を混ぜたものをベースとして

- ◎ケチャップ(8g)…[46kcal、食塩相当量0.8g]
- ◎練り梅(5g)…[38kcal、食塩相当量0.9g]
- ◎カレー粉(少量)…[36kcal、食塩相当量0.5g]

他にも自分の好みの調味料でいろいろ作れます。粉のものはあらかじめ少量の湯で溶いてから混ぜるとダマになりにくいです。



### 豆腐はヘルシー？

- 木綿豆腐(100g:1/4丁)…72kcal・たんぱく質6.6g・脂質4.2g
  - アジの刺身(60g:一人前)…74kcal・たんぱく質11.8g・脂質2.5g
  - 生クリーム(15g:大さじ1)…65kcal・たんぱく質2.0g・脂質4.5g
  - マヨネーズ(12g:大さじ1)…84kcal・たんぱく質1.5g・脂質9.0g
- 生クリームやマヨネーズに比べると少ないものの、豆腐にも脂質はあるので、食べすぎには注意



## グラタンソース

### 作り方

豆腐クリーム200gに豆乳(牛乳)70cc、コンソメ小さじ1を加え、よく混ぜ合わせる。[3人分程度/195kcal、食塩相当量1.4g] グラタンの具となる好きな具材(加熱したもの)を耐熱容器に入れ、その上からグラタンソース、溶けるチーズをのせ、トースターで焼き目がつけば出来上がり(あまり長く焼きすぎると舌触りが悪くなります)。



## 豆腐スイーツ

### 作り方

豆腐クリーム100gにメープルシロップ(大さじ1)とバニラエッセンス数滴を加えて混ぜ合わせると甘味クリームに早変わり。[126kcal、食塩相当量0g] 果物や白玉、あんこ、黒蜜やきな粉など組み合わせオリジナルスイーツをどうぞ。

## 豆腐の高い栄養価

◎出典：食の医学館

「豆腐」は、良質なたんぱく質を含み、大豆そのものより消化がよいのが特徴です。脂質はコレステロールを代謝するリノール酸が中心。ビタミンB1やE、カルシウム、免疫機能に関わり味覚を正常に保つ亜鉛や高血圧予防に効果的なカリウムも豊富です。糖質は、ダイズオリゴ糖が主成分であるため腸にもやさしい食材です。

◎監修：管理栄養士 有富早苗 福田有子



NEWS

医療現場からの提案が製品化に!  
「歩行器装着用点滴スタンド“てんてく棒”」

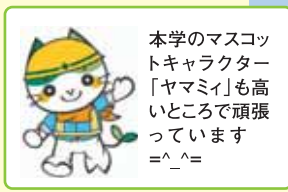


歩行器装着用点滴スタンド「てんてく棒」※ピンクの部分

本院看護師長が、山口県内主要病院に対して行われた医療現場のニーズ調査において提案したアイデアが製品化されました。

提案者の後藤直美看護師長は、歩行器を使用する患者さんが点滴中に移動する際、片手で点滴スタンドを持ちながらの移動は不便、危険であったことから、点滴中でも安心してスムーズに移動できるような点滴スタンドがあればと“てんてく棒”を考案し、やまぐち医療関連成長戦略協議会が開催した、平成26年度「医療現場の課題・ニーズ発表会」にて発表しました。“てんてく棒”は、既存の歩行器に簡単に取り付け可能な点滴棒で、輸液ポンプの取り付けも可能なものです。

このたび、宇部市に本社を置く株式会社伸和精工により、後藤看護師長、前原理学療法士の指導と臨床評価並びに山口県産業技術センターの技術支援を受けて開発、製品化されました。これにより、医療現場の安全・安心な環境作りに寄与できることが期待されます。



本学のマスコットキャラクター「ヤマミィ」も高いところで頑張っています  
=^\_^=



工事現場には、2月中旬から大型クレーンが設置され、現場内の資材の受け渡しや部材の取り付けをしています。このタワークレーンは、建設する建物に合わせて高く伸びていき、高層階に資材を効率よく運ぶことができます。その足元では着々と病棟の骨組みが作られており、4月末現在、3階の床部分まで上がっています。また、5月中旬には、保健学科研究棟側に、キャタピラのついた移動式の大型クローラクレーンも設置されます。



平成29年4月29日撮影



右側に見えるのが第1病棟(10階建て)で、正面奥に見えるのが患者さん用の立体駐車場です。

Q. タワークレーンはどうやって伸びるの?

A. 「一番下の台座は動かさずに『自分で背骨を継ぎ足して身長を伸ばす』イメージです。」

当院に設置されているクレーンは「マストクライミング方式」と呼ばれるもので、足元は固定されており、高さを上げる時は、支柱(マスト)の部材を自らクレーンで持ち上げて上部に継ぎ足し、その伸びた部分を本体(赤いクレーン部分)に登っていく仕組みです。例えば左図の左側をご覧いただくと、白い支柱がビルに沿って長く伸びているのが分かります。

※参考画像(引用元:「写真AC」)

再開発整備事業へのアクセス

山口大学 再開発

再開発整備事業URL  
<http://h-seibi.hosp.yamaguchi-u.ac.jp>



編集後記

早いもので、もう6月…。4月に新社会人の仲間入りをした人も、そろそろ職場に慣れた頃ではないでしょうか。本院では4月より病院長、看護部長が代わり、新しい風が吹き始めました。病院だよりもデザインをリニューアルしてお届けします。

皆さんからのご意見・ご感想をお待ちしております。  
今後読んでみたいテーマ、興味のある記事などお気軽にお寄せください。  
FAX 0836-22-2113 E-mail me202@yamaguchi-u.ac.jp

企画発行：山大病院だより編集委員会  
事務担当：山口大学医学部総務課総務係  
〒755-8505 山口県宇部市南小串一丁目1番1号  
TEL 0836-22-2007 URL <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp>